

ポリウレタンコーティングの オンリーワン企業

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット



ユニレタンの各塗布原料

業務内容
エレベーターの気密ゴムや粉粒体機器などに受注拡大

昭和59年にポリウレタン塗布事業を開始。ポリウレタンの本来の特性の高摩擦係数・耐摩耗性を生かし、パーツフィード内面塗装中心に事業拡大した。ほかにもトンネルファンや野球バット、水中ポンプなど多岐にわたり機械器具・用品に高機能ポリウレタンを施工する。約10年前からポリウレタン原料の複合化やテフロンとのハイブリッド加工によりさらに機能を向上・拡大し、表面処理塗布の需要が増えた。また耐摩耗性の高いウレタン原料を複合技術で高摺動性原料に変換する技術を開発し、エレベーターの気密ゴムや粉粒体機器の搬送面の塗布向けなどの受注にも広がっている。

強み
塗布技術の開発に注力
ポリウレタン特性を進化



ポリウレタン塗布加工したパーツフィーダ

超高耐摩耗性ポリウレタン原料を製造販売し、摺動性ポリウレタン原料の複合技術でテフロンに近い特性を提供している。産学共同で独自開発したポリウレタンコーティングの「ユニレタンシリーズ」はスプレー施工方式で形状や塗布膜厚を問わず金属を始めプラスチック、ゴム、コンクリート、木材など幅広い施工ができるのが特徴。高弾性で優れた吸音性や耐摩耗性、耐候性、電気特性、耐薬品性、耐水性、耐油性を持つ。テフロンやナイロン、ポリエチレンなど素材・用途に合わせたワンストップに

よる提案や注文から最短一日での納期、中国や韓国企業との技術提携により海外対応できることも強みである。

産学連携
耐摩耗性と密着性が高い
フッ素樹脂に近い高摺動性

平成22年度の経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援（サポイン）事業に採択され、龍谷大学や和歌山大学と共同でフッ素樹脂コーティングの性能に近いポリウレタンコーティングの実用化に成功した。「フッ素樹脂に近い摺動性（摩擦係数で0.03〜0.01レベル）や耐熱性の改善がなされた新ポリウレタンは粉体機器やプラント等広域産業分野での応用が期待される」と苗村昭夫社長は強調する。これまでフッ素樹脂コーティングを頻りに塗り直したりしていた手間とコストが大幅に軽減。また2液混合の化学反応で常温硬化するポリウレタンコーティングは、焼成が必要なフッ素樹脂と異なり、現場施工でき顧客の利便性が高まる。二次電池電極用など粉粒体プラント関連向けの需要などを見込んでいる。

今後の展望
本社の設備や品質向上など強化
ポリウレタンの耐熱性を改善

中国や韓国向けに技術提携や販路拡大する。また研究開発の陣容を充実し原料の開発や改善、コスト削減を進めていく。本社工場は、現在全面改装工事中（平成27年5月完成予定）で最新の塗布機器を導入し、品質向上・納期短縮・生産効率・職場環境の改善していく考え。またポリウレタン原料の「耐熱性」を70℃〜80℃を120℃〜150℃への改善などの研究を進めていく。

大阪 26

COMPANY PROFILE 株式会社ユニックス

当社の歴史

昭和59年に苗村昭夫現社長が電機メーカーから独立し、ウレタン塗装と同研究開発型企業として設立。創業時は「大阪ニューサンワ」として開業し、昭和63年に法人化しました。パーフィーダ以外にも使用済み注射器の溶解滅菌装置を開発。平成6年に社名を現在のユニックスに変更。自動おにぎり機、アスファルト転圧機など自社開発商品を生み出しその後、ウレタンの研究開発、原料の製造販売に事業集約しています。理念は顧客満足から始まる社員満足。社は和・誠実・挑戦心です。

ウレタン原料で世界一級品の超耐摩耗性原料開発成功と共に塗布技術の改善を進め顧客満足度につなげる企業です。

代表取締役社長 苗村 昭夫さん



■主な事業内容
ポリウレタン(ユニレタン®
テフタン®)の高機能表面
加工、ウレタン原料製造・販売

■主な取引先(納入先)
粉体製造機器メーカー、
パーツフィーダメーカー、
自動機器・環境などの
産業機器・用品メーカー
および商社

住所 / 〒578-0901
東大阪市加納
4-14-31
TEL / 072-968-1166
FAX / 072-966-3233
創業 / 昭和59年12月
設立 / 昭和63年4月
資本金 / 2,200万円
従業員 / 10名

<http://www.unics-co.jp>